

備後教区報

第 146 号



CONTENTS

- ◇ 実践運動 教區委員会・部会
専門委員会の紹介
- ◇ 視点一連載「宗教法人の宗務
を再考する」①
- ◇ 備後学僧侶逸伝
沼隈西組 大東坊 大慶 師
- ◇ 原発現地学習会レポート
- ◇ NEWS & 活動情報
- ◇ 予報・インフォメーション



視点

連載 「宗教法人の実務を再考する」①

税務署からの『お尋ね』文書をめぐって

寺院は源泉徴収義務者

今年に入つて教区内の一部寺院に対し、所轄の税務署から「源泉徴収の内容等についてのお尋ね」(以下『お尋ね』と略)と題した文書が届いた報告があった。文書では目的を「源泉所得税の納付並びに法人税及び消費税の申告の適否の確認のため」と記され、期限を設けて回答を要求している。この税務署からの文書に対し、公益財団法人全日本仏教会は、法定外の文書であり「提出しなくとも、期限をまもらなくても、提出しても、不利益を受けたり利益を受けたりするようなもの」ではないとして、提出の有無は納税者の自由意思にまかせられるものとしているが、この税務署の『お尋ね』文書の内容を検討すると、源泉徴収義務者として所得税を徴収して国に納付するという事務上、欠かせない内容となつていて、そこで、宗教法人の実務について自覚と再考を促す意味から、宗教法人の税務も含めて国税庁や文化庁から発行されている資料をもとにまとめ連載する。第1回目は税務署の『お尋ね』文書の回答書の内容である「宗教法人の税務」についてはまとめてみた。

(文責・教区報専門委員会)

『お尋ね』文書の内容は

今回の税務署の『お尋ね』文書の回答書のうち

(1)は「宗教法人の概要等」で宗派、檀家数(信徒数)、檀家総代の住所、氏名、年間行事・祭事の日付、名称・内容等となつて

いる。(2)は「宗教活動の収支等の状況(直近事業年度分)」で、收入の部が「お布施」「祈とう料」「永代供養料」「さい錢」「お守り」「そ

の他」で千円単位で記述することになつていて、支出の部は「人件費」「その他」の2項目が空欄(千円単位)。

(3)は「事業又は収入の具体的な内容等」で「宗教活動以外の収入以外の収入」の項目に「主な収入先」と「主な支払先」を記入するようになつていて、収入金額は直近の3年度分を千円単位で回答することになつていて、(4)は「預貯金等の状況」で、

金融機関名として預貯金の種類と

残高(千円単位)。証券会社名として種類銘柄と残高(千円単位)となつていて、(5)は「不動産の状況」で土地、建物、車両の所在地等、取得価格、取得年月日。

(6)は「備付帳簿等の状況」で、帳簿等の種類として「現金出納簿」「財産目録」「損益計算書」「貸借対照表」で備付の有無と記帳担当予定表で備付の有無と記帳担当者を記載することになつていて、(7)は「給与の支払状況」で、

氏名、年間支払金額、扶養親族の数、源泉徴収税額、他の勤務先名を記入するようになつていて、(8)は税理士、弁護士などの報酬や原稿料などの支払状況で、報酬料金の種類、支払年月日(支払期間)、支払金額、支払先を記載して回答するようになつていて、

この項目のうち、宗教法人の源泉徴収事務に直接的に関係するのは(2)の「人件費」で住職などに対する給与や退職金、一定の報酬・料金を「人件費」として支出していれば、源泉徴収の対象となる。また、(3)の項目は宗教法人の収益事業に関わる部分で、法人税の納税義務がある。国税庁が挙げる宗教法人の収益事業は34種類あるが、「お守り、おみくじ(本願寺派にはないが)等の販売、墳墓地の貸付け、境内地等の席貸し、宿泊施設の経営・所蔵品等の展示、茶道・生花等の教授、駐車場の経営、結婚式場の経営などは、本来の宗教活動の一部か収益事業のか、判断微妙なので、次回以降に国税庁発行する資料により掲載す

平成22年4月

宗教法人の税務

源泉所得税と法人税・消費税

国税庁
この内容はあくまでも概要です。

過去源泉所得税の納付は電子納付で済みます
源泉所得税の納付は、インターネットや電話による電子納付が可能になります。
電子納付をしていない場合は、紙面での申込書類や手書きの申込書類を提出できます。
どちらの方法でも、源泉所得税の納付額に従ってe-Taxをご利用に済ませることができます。
詳しくは、www.nta.go.jpをご覧ください。

イーラックス ホーム

▲[宗教法人の税務－源泉所得税と法人税・消費税－]
www.nta.go.jp（国税庁のホームページよりダウンロードできます）

宗教法人の税務については、国税庁から「宗教法人の税務－源泉所得税と法人税・消費税－」（平成22年4月）の冊子が出されているので、これを参考してまとめた。なお、この冊子は所轄の税務署かインターネットで国税庁のホームページ（www.nta.go.jp）でダウンロードできる。

まず、認識しなければいけないのは寺院住職が「源泉徴収義務者」であること。代表役員（住職）や職員等に給与や退職手当を支払う場合、あるいは税理士等の報酬・

は、年末調整時に必要となる。（6）の備付帳簿に関して直接的に源泉徴収事務に必ずしも必要ではないが、宗教法人の概要状況（収益事業の有無）によって必要となる。また、収益事業を行わない場合でも、一定の収入（布施収入などを含めた年間収入金額の合計額が8000千万円を超える場合はその事業年度の損益計算書又は収支計算書の提出が必要となるので、注意が必要である。

帳簿類は宗教法人法上で義務

（6）の備付帳簿に関しては列記しているもののか、宗教法人法上での義務付けはなが、備付けが望ましいものとして、文化庁は「規則の施行細則」「法人登記簿の謄本」「信者（門信徒）名簿」などの書類や帳簿を挙げている。

なお、事務所備付帳簿は宗教法人法第25条第4項の規定により、毎会計年度終了後4ヶ月以内に所定の書類を都道府県知事に提出している。

決算書（次のいずれかに該当する法人）②財産目録（全法人）③収支決算書（次の一に該当する法人）④貸借対照表（作成している法人のみ）⑤境内建物に関する書類（財産目録に記載されていない境内建物がある法人のみ）⑥事業に関する書類（公益事業や収益事業を行っている法人のみ）となつていてる。

宗教法人の税務について、国税庁から「宗教法人の税務－源泉所得税と法人税・消費税－」（平成22年4月）の冊子が出されている。なお、この冊子は所轄の税務署かインターネットで国税庁のホームページ（www.nta.go.jp）でダウンロードできる。

提出書類は①役員名簿（全法人）②財産目録（全法人）③収支決算書（次の一に該当する法人）④貸借対照表（作成している法人のみ）⑤境内建物に関する書類（財産目録に記載されていない境内建物がある法人のみ）⑥事業に関する書類（公益事業や収益事業を行っている法人のみ）となつていてる。

個人、法人の会計の区別をこの源泉徴収事務を行うためには、個人の会計と法人（寺院）の会計を明確に区分しておく必要がある。たとえば、宗教法人の収入を住職個人使った場合、これは宗教法人から住職への給与の支配とみなされ課税される。

以上、今回は宗教法人の税務のうち源泉徴収のさわりの部分だけを国税庁発行の資料からまとめてみた。疑問などは必ず、所轄税務署や担当税理士などにご確認の上、適正な税務処理されるよう望みます。

なお、平成24年度第1回中国・四国地区宗教法人実務研修会（文化庁・岡山県主催）が11月6日と7日の2日間、岡山市の公立学校共済組合岡山宿泊所「ピュアリティまきび」で開催される。参加申し込みなど詳しくは教務所へ。

備後学僧逸伝



その行状は厳密。肉食妻帯もしなかつた。最も清楚と謳われた

肉食妻帯もしなかつた。最も清楚と謳われた

清流紀談の記述（※原文）

大慶師は備後沼隈郡藁江大東坊に生れ、主忠昌（曾昌）により。竜延室賛

住む住侶（僧侶）なり。寛延宝曆
の間、曾祖（一四七四）^{えい}の
孫（一五〇九）^{うん}。

（芸轍）の祖）諸師と同時代の人ではあるが、別に師表（模範や手本すべき人）を定めず、また弟子をどうぞ独り義解（経の解説）を切磋する。

二十一歳の時、和州（奈良）木原の大行寺と云う人の慾憑（勧め）で同国東下（戸毛）の大乗寺の靈巖師と云う耆宿に随従し、彼寺に看住す

こと凡そ三十年。初瀬の学寮（眞言宗豊山派本山長谷寺）に遊び、隆山・智暉等の龍象に接し専ら性相を学び、其余諸宗の奥義を究めた。

三十六歳で初めて人の前に説教した。宗乗の学（真宗学）を別して研

磨せざれとも、經論章疏一つも解釈せずと云うことなし。殊に事實に行

き渡つて詳細である。一時、履善の
為に『法要典拠』の闕たるを補ふ。

造次顛沛（とつさの時にも）佛恩を感
じ深く冥加を恐れる。その行状

の厳密なるに至つては履善・大乗の
だいじょう

城下光善寺にて大慶は『仏制比丘六物図』を講じたがこれを著した元照律師も「説者卑賤なれば人これを信受せ重んず」と述べたといふ。人に因りて法を重んずる事もあればこそ、その破れを寧ろ「衣を紫にして、袈裟を錦に」と切に諫言したという。

「平生は兎もあれ、今日は諸宗相対のことなれば、威容嚴重なるこそ良い。決して官職寺法には關らず。」
とすると。寺主諫めて曰く
「又、因人重法と云うこともあれば
請衣服を改めたまふべしと。」

一歳大慶師がその任に当り、藩の光善寺に於いて天台四教義を講ずることになった。然るに師は更に行粧を刷うことなく、破れたる直裰の上

福山侯府下に於いて毎年夏中諸宗の名髦を請して輪欠（順）に講会を發かしむ。此時に當て招に赴くや各宗門の名譽とす。故に講者は勿論、聴衆に至るまで行粧を莊り、威儀を整えざる者はなかつた。

二師も及ぶところにあらず。
生涯、淨肉と云へども濫に食せず、
また終に婦女子に近づかず。
癸亥の擾乱（三業惑乱）のとき、
京師（京都）に留滞せること数年、
護持尤も功ありとぞ。

(真宗全書第66巻)にも掲載され
ており、『真宗学苑談叢』で前田
慧雲は「嗚呼、今の腹中枵然、言
行汚辱にして、徒らに銅臭(いだす)
の臭い)の錦衣を以て、其外儀を
飾ることをのみ務むる者、師の風
を聞いて豈に能く愧死(死ぬほど
恥ずかしく思う)せざらんや。」
と嘆じて大慶を敬慕している。

月せ「百ナリ後年と十三歳シテ御禁傳トキ
アリケテ御禁傳ノ跡ニ及シテ御禁傳トキ
大慶師ハ猶御禁傳トキ
ノ間御禁傳詩ト時ニ國スミトイヘモ利二詩表ヲタメテ
え季子アリケ得ル義典ノ如題スチ一歌ノ時和歌也
大吉寺トキヘ「人ノ御歌ニ依ト國紀丁ノ大參辛ニ
靈臺詩ニ云「ニ書傳ノアハスミ露既見ニ隨子」者皆此ニ
トヨリニテ序ノ済ノ御歌ニ隨子即之子ノ御歌ニ
極ニ歌ニ性相ヲ御歌ノ御歌家ノ御歌傳ニ度ニテ

破柄のまま勤められた。文政元戌
寅年¹⁸¹⁸春三月、享年八十七歳 疾を
もつて終る。

慶公 辞して答えるに
「私は曾て太守より四教義を講ぜよ
との命を受けたが、未だ服を換えよ
との命を伝え聞いてはしない。
況や五十年一日とて卒尔（にわか）
に法服を変えたこともない。これは
寺法を重じ、国法を敬すればなり。
何ぞ輒く此一事において、我が
行状を改め替えんや」と、終に

【大慶の略歴】

元文4年¹⁷³⁹(享保17年¹⁷³²)説もあり)藁江の大東坊18世栄応の六男として出生。18歳で修学の志を発して20歳には大和(奈良)に上る。

木原の大行寺に居を定めて学問研鑽に励み、高名な儒者・高芙蓉^{こうふよう}に入門して儒学を修めた。

大和に着き3年間は「床に臥することなく、唯だ机を枕として学ぶ」ほどで、他にも大和国飛鳥神社を訪ね、神道講談を数度にわたり聴聞するなど多彩な知識欲を有した若者であつたようだ。

高祖五百回忌¹⁷⁶¹には本山参詣して能化義教の講義を聴講しているが、この頃から毎年学林に赴いて夏安居で学ぶようになった。

40代の頃に大乗寺住職に転住。

その間、平野の大念佛寺(融通念佛宗本山)や初瀬の長谷寺(真言宗豊山派本山)学寮に寓居し、起心論、唯識、俱舍、華嚴、法相など幅広く余乗を学んだ。

天明4年¹⁷⁸⁴までに玄智と合議して『非正統伝』の著作に関わる。

61歳のとき、備後大東坊に帰住。享和3年¹⁸⁰³の三業惑乱の際には京都に数年留まり、身命を賭けて法門護持に力を尽くした。

前田慧雲は大乗の戯れにも妄語せず、大慶の寺法を謹守すること、ここ百年で彼らほど敬慕された者はないと讃えて左の詩を吟じた。

大乘興大慶。道徳遠募古。言行如持戒。乘也太厳正。瞬兒不妄語。

(大乗は大慶を興す。道徳は遠く古を慕り、言行は持戒の如し。大乗は嚴正で、姿形を弄せず、妄語をしない)
慶也最清素。終生不娶女。縉衲守寺法。敵袍狐裘伍。氣帷聳千仞。霜松立崕嶺

(大慶は最も清潔、終生女性を娶らず。黒衣は寺法を守り、破衣は狐裘の如し。氣概高く聳え霜松南岳に立つが如し)

文化元年¹⁸⁰⁴、大瀛の五七日導師をつとめ、本山では洞達格に任じられ、履善とは『法要典拠』増補校補に協力した。

文化4年¹⁸⁰⁷に学林看護に就任。同年、安居付講で『六物図』、秋講で『正信偈』を講じ、6年¹⁸⁰⁹で示寂。87歳寂との説もあり。

敬得院大慶。大正12年7月31日、立教開宗以来の宗門功労者の一人として本願寺より表彰された。

大慶の功績には『非正統伝』と『法要典拠』の著作に重要な役割を果たしたことが挙げられる。

『非正統伝』序文には「この書は和州大乗寺大慶師と京都慶證寺玄智との共著と称すべし。大慶師は玄智師と同時の人なれどその伝

詳かならず」と記されているが、大東坊大慶で間違いない。

江戸時代、高田派・東西本願寺がそれぞれの立場で親鸞伝を開板して、加えて諸末寺が利潤追求の卑俗な絵伝や事実に基づかない偽書も数多く刊行されていたとい

う。そのなかで真仏顕智が著し、高田専修寺に秘蔵されていた存覚作の祖師伝と銘打つて板行され、親鸞伝のベストセラーとされたのが高田『正統伝』である。大慶は

「此伝存覚師ノ名ヲ借テ高田派ヨリ出ス所ナリ。全クハ信スベカラズ」として、「吾等ノ本廟ヲ輕蔑シテ支

流ト称シ、高田一流ヲモツテ正統総本山トスル」高田派の正統意識

【高田派と備後明光教団】

かつて備後は関東六老僧と呼ばれる親鸞高弟の明光上人の一派が西国に来られたことが始まりとされている。もつとも学問的にいえば、明光は親鸞の時代ではなく後の覺如や存覚の時代の人とされており、高田専修寺の教線や仏光寺に関係が深い地域といえる。

そして高田専修寺は親鸞が帰洛の際に東国をゆだねられた門弟の



(上) 大東坊に残る『非正統伝』
大慶の朱点や書き込みも多い

代表格真仏に創建されたという。

大東坊も六坊と称される古い由緒をもち、奇しくも寺伝では明光に随つて関東から来た明光高弟の真仏が開基という。また本願寺派に帰参してからも法灯護持の念厚く、石山合戦で顯如上人より特に賞与をうけるほどであった。

そのような土徳の中で生まれ育ち、真実を探求してきた大慶にとつて、「正統伝」は許しがたい偽妄の書であつたようだ。

正しい血脉相承が重要であると法脈と血脉一致の本願寺を貶めて却ツテ汝方家ノ真仏顕智二師マデニ偽妄ノ罪ヲ蒙ラシムルヤ、汝大谷一流ヲ貶辱セント欲スレドモ、汝ノ所造ノ伝中シバシバ吾之御本廟ヲ貶スル文多シ」と指摘。

また真仏・顕智の所録とされる聖人伝『正明伝』も「注釈ニシテ伝文ノ体ニアラズ」等の例を挙げ、典拠史料を完全に信用するに足りないとみたようだ。

【考証にすぐれて真偽を探求】

大慶は和州大乘寺を去るときに内外諸典自他經釈千三百余部」を故郷大東坊に持ち帰つており、

経論章疏一つも解釈せずと云うことなし。殊に事実に行き渡つて詳細



大慶の所見の書は全て朱点を加えられ、現在も大東坊内「麟閣」という経蔵に保管されている。引野教授により近年調査され、その貴重な蔵書の一部は大谷派の真宗聖教全書にも収録された。

ちが強い関心を持ち、各分野の書物を丹念に購入、収集して研究につとめてきたのが実態であったのではないかと分析している。

また数多くの蔵書には表紙裏に大慶が記したと思われる以下のような書きこみが見つけられる。

「僧僕公菅窺錄曰ク、真宗教要鈔、コノ作者ハ、ヨホド博ク物ヲ知リタル人トミエテ書ノ体文筆モ、鄙俚ナラズ（中略）然レドモ中ノ蓮祖ノ撰トハ思ワズ、ヨホド小巧ヲマワシテ利口ゲニ見ユ、大善知識ノ口氣ニハアラズ、故ニ

雜著ノ中ノ正シキモノト定ムベシ」

つまり、大慶は購入した談義本を決して有用な書物とは認識しておらずとも、真偽の判別や高度な判断を加えながら書籍を収集する「批判的読書」と呼ぶべき姿勢で研究する学僧だったようだ。

それから二十余年を空しく過ぎて「世に『法要典拠』完成を助けてくれる君子はいないものか」と思つていた処、三業惑乱で宗主に召されて京都で初めて出会つた大慶から「我也夙に法要勘考の志あり（かねてより私も同じ志があつた）」と協力を得て、遂に『法要典拠』を出すことができたという。宗門の美談として語られる逸話の一つだが、これを超然が法主の命をうけて更に増補して六百回大遠忌事業で『校補法要典拠』刊行。こうして現代の『真宗聖教全書』へと繋がり、真宗の聖典研究に大きく寄与したのである。

【真宗法要典拠】増補

江戸時代、絵解き法話や節談説教なども盛んであつた一方、史実や内容が伴わないものも多く、民間書林から次々と出版される真宗聖教は誤字・脱字を多く含み、ときには親鸞・蓮如を著者に仮託す

る偽撰の書も多かつたといふ。このため宝暦年間には余りに卑俗な本を偽撰と断じていくため、僧僕（僧鎧・慧雲・智洞等の師）が『菅窺錄』という聖教目録が作成し、真宗で依用する聖教を選ぶ僧僕門下であり『妙好人伝』でも名高い仰誓は、これを発展した『真宗法要典拠』を著すが、不備から出版することなく息子履善に増補作業を託して示寂。

僧僕門下であり『妙好人伝』で『真宗法要典拠』編纂事業を掌つた。僧僕（僧鎧・慧雲・智洞等の師）が『菅窺錄』という聖教目録が作成し、真宗で依用する聖教を選ぶ僧僕門下であり『妙好人伝』でも名高い仰誓は、これを発展した『真宗法要典拠』を著すが、不備から出版することなく息子履善に増補作業を託して示寂。

このため宝暦年間には余りに卑俗な本を偽撰と断じていくため、僧僕（僧鎧・慧雲・智洞等の師）が『菅窺錄』という聖教目録が作成し、真宗で依用する聖教を選ぶ僧僕門下であり『妙好人伝』でも名高い仰誓は、これを発展した『真宗法要典拠』を著すが、不備から出版することなく息子履善に増補作業を託して示寂。

【三業惑乱にもつとも功あり】

前頁の『清流紀談』は大慶の示寂から15年後の天保4年¹⁸³³に刊行されたもので龍護が著述し、収録には『反世紀略』等で三業惑乱に詳しく述べた。『法要典拠』にも関わった超然が協力した。

注目すべきは大慶が「癸亥の擾亂で京都に数年留まり、護持尤も功あり」と記されている事である。在野の学僧として論争に活躍した大瀛や法主に従い顧問をつとめられた履善といった人ではなく、比較的無名になつてゐる大慶こそが護持に最も功績あつたといふ。

在野の学僧として論争に活躍した大瀛や法主に従い顧問をつとめられた履善といった人ではなく、比較的無名になつてゐる大慶こそが護持に最も功績あつたといふ。

大東坊の記録では文化元年¹⁸⁰⁴の10月17日、筑前大乗、出雲誓鎧、備後大慶の三師に本山「堂達格」を命じられている。

堂達とは『本願寺通記』に宗祖高弟の六老僧に由来して宗主の背後に侍したとされ、『実悟記』には「色と肉とを禁絶し常に経論を検すと言へる者を証とすべし」と記されている。要するに堂達とは御堂衆のことではあるが、本来は式務を司るだけではなく、教学等の問題を評価採点するような重要な役職であったようだ。

事実、大慶は堂達格を仰せられ

たが「御堂出勤には不及候となり」という扱いであつたようだ。

翌年5月5日、呼寺号「徳聚寺」を賜り、関東未事中のため閉門中の本山で『御前講』を白書院の處、黒書院で執行。このとき5月10日より大乘が「讚弥陀偈」を、6月1日より大慶が「高僧和讃曼鸞章」を、次に履善が「往生礼讃」を講じられたようだ。

なお学林は裁断後の文化4年¹⁹⁰⁷に安居を再開しているが、このときには「学林看護」という役に就任している。

三業惑乱初期に大瀛が質問書を送つたとき、学林を代表して答弁したのは学林看護であつたようになりやらず学林における知事職のような役をつとめたようだ。

いざれにしても学林が新体制で発足する時期、役職や講義を任せられ、支えた一人には違ひない。

『学林看護・真空宛の書状』
寛政10年12月 芸備を代表して大瀛が学林に質問状を送つたとき、学林看護が代表して答弁されたので再度大瀛は看護に書状を申し送つた



【大瀛との関係】

下記は大東坊に現在も残る大瀛から大慶への書簡の内容である。

安芸の大瀛は三業惑乱で欲生帰命・三業帰命の邪義を打破した代表格として知られている。芸轍の資料では大慶は慧雲門下の同窓とされている。年こそ離れているものの安居仲間であつたようだ。

また後に大東坊21世の子・純淨が安芸寂靜寺の雲蓋（大瀛門下の道振の子）を師となした事なども関係したのだろう。

手紙はまさに三業惑乱の真只中に出された手紙であり、幕府が両徒を追及し御裁断するため古義派代表の大瀛も江戸奉行所に向かうその直前に書かれたようだ。

大瀛は大慶に対し十分な敬意を示され、この難局に共に法主の力になつていこうと呼びかけられている事などが窺われる。大瀛は江戸裁判中、文化元年5月に示寂。江戸から京都を経て6月8日に帰郷した晩に早速、大瀛の五七日の逮夜導師をつとめたのは他ならぬ大慶であつた。病のなかで身命をかけた大瀛と最高齢にあつて護持につくした大慶と、思いが通じるところは多かつたのであろう。

「大瀛より書簡」（一部意訳）

檄を飛ばし貴意を得る事ができた。

先ずもつて嚴寒の砌に御座候えども益々御安穩に御法勤の半ばと存じ、

よろこび申し上げます。

しかば右の御法一件、当春より大法主の御判断が仰せられ出て、年来の宿霧、一時に快散し、お互に歓喜に存じ奉る処でございます。

当春以来、京都の表向きの風情は異解者は旧執を改めず、殊更真俗につき傍若無人の計らい 日をおつて増長し、是れ全く大法主の御判喻に違逆いたす処に存じ、誠に未曾有の大事件、一宗危急存亡の時節。

末弟の身分なれども、身を竭力護持せばならぬこと勿論に御座候。茲によりて面々ども早速罷登ながら毛や蹄に至るまで、大法主の御力を示され、この難局に共に法主の相い成るべく致したくとも、國禁故に遂望は難しいでしよう。

此者にとつては少々、存寄（存命）の儀も御座候えども、筆の先に顕し難いため、委細は使僧よりお聞き下さい。そのうち御賢慮も御座候わばお聞かせ下さい。正法を早く快復に相成るよう致したく御座候。その為使札をもつて如此に御座候、以上極月十七日芸州大瀛拜

News & 活動情報

原発現地学習会

【同朋社会部】8月30日、

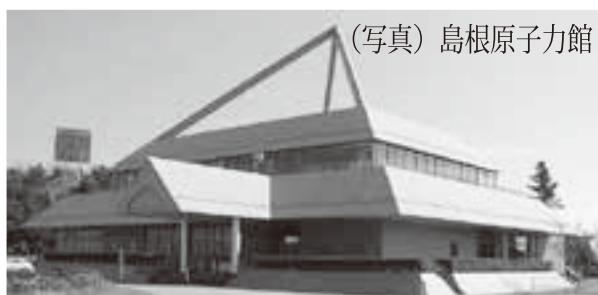
第9回環境問題現地学習会を

松江市で行つた。

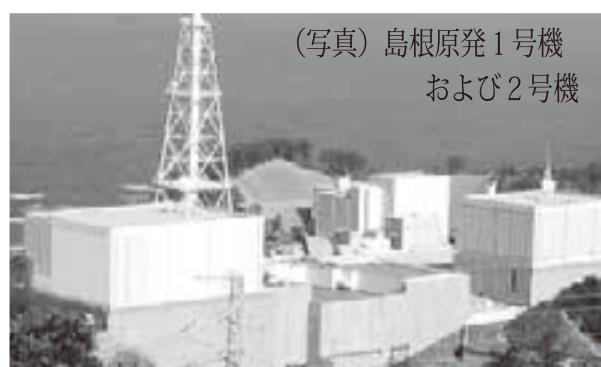
参加者17名、松江市鹿島町に島根原子力発電所はある。

日本で唯一県庁所在地に立地されており、県庁などの行政機関が10km以内にある。1980年から反原発運動を展開しておられる松江市在住の芦原康江さん（現在は島根原発増設反対運動代表者）から島根原発の現状の話を聞くとともに現地を案内していただき、説明を受けた。

原発の交付金で建てられた施設、中国電力が啓発のために設置している「島根原子力館」、そして原子力発電所1号機、2号機は山上から、さらに建設中の3号機は敷地上の道路から建物を観察した。島根原発は福島原発と同型のものである。3号機はほぼ完成しており稼動させようと目論んでいるとのことである。また発電所近くに活断層が発見されている。芦原さんが「わたしたちは、未



(写真) 島根原子力館



(写真) 島根原発1号機
および2号機

現場に行き直接現地の人から話を伺うと共に、現場を視察することで、原子力発電の問題をより身近な課題とすることができ有意義な現地学習会であった。





ビハーラ備後、公開講座

【ビハーラ】 6月22日（金）、ビハーラ備後（桜田淑子会長）は総会及び公開講座を開催。午前中の総会では、議案事項が全て承認され、いよいよ本年度の活動がスタートした。午後の公開講座では、徳永進先生（野の花診療所院長）が「死の灯すいのち」と題してお話をされ、内外から聴講を希望される方が多く、例年以上となる93名の参加があつた。ビハーラ活動の中心である「相手を受け入れる」こと、「相手のことを聞く」ということを、現場の視点を通してやさしく語られた。

第4連区青年布教使研修会

【布教団】 6月26日から27日にかけて、備後教区布教団主催による中四国5教区合同の青年布教使を対象とした研修会が開催された。

初日は、二会場（世羅組善行寺・沼隈西組善性寺）に分散し、他教区2名の実演ののち当教区副団長によるまとめ布教を行い、終了後他教区副団長も交えた講評を各々の会場で行つた。二日目はアルセ（福山市）において布教団連合書記長の黒田正宣僧侶養成部長より報告ののち、本願寺勸学寮頭の徳永一道寮頭を迎え、「平生業成」ということ』という講題でご講義をいただき有意義な研修会となつた。参加者82名。布教実演の出講者は次の通り（実演順・敬称略）

- 世羅組善行寺 出講者
- ▽ 山田一道(四州松山外組教圓寺)
- ▽ 伯淨教(山口厚狭西組常元寺)
- ▽ 山下義円(奥組淨福寺)
- 沼隈西組善性寺 出講者
- ▽ 斎藤友法(山陰益田組善正寺)
- ▽ 渡邊幸司(安芸佐伯東組光乘寺)
- ▽ 那須英信(沼隈南組善正寺)

総会・夏期布教大会

【布教団】教区布教団の総会並びに研修会（6月20日）および夏期布教大会（同21日）が本願寺備後教堂で開催された。研修会は北塔光昇・本願寺勧学を講師に招き、布教大会では団員4名の布教使があわせ北塔勧学にもご法話いただいた。布教大会団員出講者は次の

通り（出講順・敬称略）

▽藤井義英（比婆組 西教寺）

▽山下瑞円（奥組 清福寺）

▽竹政信至（鴨川組 正覺寺）

▽那須英信（沼隈南組 善正寺）

青年布教実演

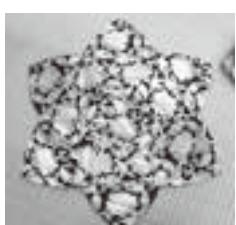
【布教団】 8月1日、比婆組西念寺において青年布教使の会による布教実演が行われた。以前西念寺前住職が布教団副団長を歴任されていていたことがご縁で、13回忌法要に併せて開催の運びとなつた。

青年布教使に引き続き、元副団長並びに現副団長より30分ずつのご法話をいただき、終了後副団長を中心とした講評の場が設けられ、貴重な研鑽の場となつた。出講者は次の通り（実演順・敬称略）

法衣と内敷の研修



▲雪見型仏飯台の内敷き



▶生地の裁縫

【勤式】6月29日（金）、教区勤式指導所（藤田徹信 勤式指導員）では、前期勤式研修会を開催。講師の古市秀樹氏（川勝法衣店店長）に打敷や法衣の構造についてお話をいただいた。参加者は終日で延べ41名。また、昼休憩に組勤式推進員の協議会を開催し、各組より勤式推進状況が報告された。

【勤式】 6月29日（金）、教区勤式指導所（藤田徹信 勤式指導員）では、前期勤式研修会を開催。

▽藤間幹夫（深津組光明寺）
▽蔀晃尊（三次組円勝寺）

△川上順之（神石組法泉寺）
△長谷川憲章（三谿組善徳寺）

▽藤間幹夫（深津組光明寺）
▽蔀晃尊（三次組円勝寺）

△川上順之（神石組法泉寺）
△長谷川憲章（三谿組善徳寺）

▽藤間幹夫（深津組光明寺）
▽蔀晃尊（三次組円勝寺）

世羅で子育てセミナー



た。印象的だつた。元気によい遊びが印象的だつた。佛婦役員を担当し、子どもたちが元気に楽しんだ。

【仏婦】6月24日(日)、佛教婦人会連盟(三島当子委員長)では、各組から選出の若婦委員が構成する若婦人専門委員会「ほほえみの会(代表井田聖子)」企画の「お寺で子育てセミナー」を世羅組善行寺にて開催し、未就学児のいる母親たちが参加した。

講師の藤本明美先生(京都子育て支援コミュニティーウォーカー)

は、お話、ゲーム、ワークショップを中心に「普段の子育ての悩みや不安を皆で分かちあう場所」を提供。始めは緊張した面持ちだった母親たちも最後は笑顔で閉会式を迎えた。お寺の庫裏や境内では、

仏婦役員をはじめOBやビハーラ会員が保育を担当し、子供たちが元気に遊びました。

【仮青】7月28日(土)29日(日)にかけて、「全国真宗青年のつどい」(四州教区担当)が丸亀市で開催され、備後教区からも16名が参加した。トーキセッションの司会は釋師がつとめ、香山リカさん、上田紀行さん、池坊由紀さんが出演。「絆(くず)つつながつていた」をテーマに様々な角度からトーキーを繰り広げた。

会場を埋めた1500名(一般聴講含む)の参加者は絆を再確認するとともに、本当の意味の絆とは何かを考えさせられた。そのあと三浦あかりさんのライブ、福井舞さんの歌唱で盛り上がった。

2日目には班別ディスカッショ

釈徹宗師らがトーク



▲全国真宗青年の集い参加者

ンなどが行われ、全国からの参加者と交流を持つことができ、充実した大会であった。

新任教職員補任式

【まことの保育】6月23日(土)、教堂本堂において、まことの保育に携わる保育士・幼稚園教諭を対象とする新任教職員補任式を挙行

した。(新任教職員16名)



併せて深津組光行寺の苅屋光影師を招き、「お育ての中で」という講題で修会を行つた。

【まことの保育】6月23日(土)、教堂本堂において、まことの保育に携わる保育士・幼稚園教諭を対象とする新任教職員補任式を挙行した。(新任教職員16名)

勤式練習会、布教団総会・研修会、少年連盟総会(アルセ)、少年教化アドバイザー養成研修会(14日まで山陰)、

中四国寺族青年野球大会(14日まで本山)、少年連盟総代会、

教区月報											
8	7	5	1	6	月	8	12	11	8	13	11
日	日	日	日	日		日	日	日	日	日	日
同朋三者懇	(尾道)	寺婦連盟総会・研修会	同宗連総会(広島)	教区事業推進委員会		被災地支援学習会	同朋社会部会	門信徒部会	門徒推進員世話人会	広報・伝道部会	中四国寺族青年野球大会
6	5	4	2	2	7	6	5	4	3	3	2
門徒推進員のつどい	キッズサポート連絡協議会	第4ブロック少年連盟指導者研修会(5日まで備後)	創作劇アジヤセ抽選会	前期勤式研修会	第4連区青年布教使研修会(27日まで備後)	被災地支援学習会	同朋社会部会	門信徒部会	門徒推進員世話人会	広報・伝道部会	中四国寺族青年野球大会

後期勤式研修会



式章の原型「肩衣」

日 時 10月26日(金) 10:30 ~ 15:30
会 場 本願寺備後教堂
講 師 式務部勤式指導所 主任
堤 樂祐 師
講 題 「葬場勤行・葬儀規範について」
参加費 2000円 (資料・昼食弁当代含む)

※ 10月15日までに組勤式推進員を通してお申込みください。

今後の予定

<10月>

- 2日 仏婦実践運動研修会
3日 第一回・真宗基礎講座
4日 常備会
5日 同朋三者懇(備後)
6日 仏壯連盟実行委員会
9日 第4連区ビハーラ集会
(～10日 三次・庄原)
10日 勤式練習会
「三帖和讃 / 広文類作法 / 葬場勤行」
11日 教堂常例法座
11日 連区議長・所長協議会(四州)
13日 連区別門推研修協議会
養成研修会(～14日 山口)
14日 中四国仏婦大会(安芸)
15日 特別布教大会(芦田 明淨寺)
19日 門信徒のつどい
23日 教区門徒総代会研修会(北部)
24日 教区門徒総代会研修会(南部)
24日 仏婦連盟常任委員会

25日 連区実践協議会(山口)
26日 後期勤式研修会
27日 仏壯30周年大会
(～28日 アルセ)
27日 仏青中央研修会
29日 平和のつどい
(府中市文化センター)

<11月>

- 7日 IT専門委員会
- 9日 勤式練習会
- 10日 ビハーラ思い出を語る会
- 11日 教堂常例法座
- 13日 ビハーラ実践學習
(寿園・相扶園)
- 15日 門信徒のつどい
- 30日 教堂報恩講

<12月>
4日 仏婦会員研修会
6日 広報伝道部会
21日 組長会

26日	仏壯連盟夏期研修会 (比婆勝光寺)
27日	第4連区布教使研修会 (29日まで 四州)
28日	門信徒部会
29日	環境問題現地学習会 (島根原発)
30日	IT専門員会
31日	中四国仏壯連盟連絡協議会 仏壯連盟単位会研修会 (大田市)
1日	親鸞わが心のアジヤセ公演 (福山リーデンローズ)
2日	勤式練習会
3日	保育連盟全体会
4日	仏壯連盟役員会
5日	同期社会部会
6日	ビハーラ備後実践学習 (ビハーラ花の里病院)
7日	教堂常例法座
8日	ビハーラ備後実践学習 (ビハーラ花の里病院)
9日	東日本大震災現地学習並びに千鳥が淵法要参拝 (18日まで福島・東京)
10日	仏婦連盟だより取材
11日	IT専門委員会
12日	IT専門委員会
13日	東日本大震災現地学習並びに千鳥が淵法要参拝 (18日まで福島・東京)
14日	実践運動についての公聴会
15日	同期講座

12月 佐々木弘海 (鴨川北組照専寺)	11月 眞澄 (世羅組 善行寺)	10月 部晃尊 (三次組 円勝寺)	教堂常例法座出講者 (敬称略)
---------------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------------------

教区門徒総代会研修会

- 【北部】** 10月23日(火)
御調西組 順勝寺(三原市)
- 【南部】** 10月24日(水)
神石組 金蔵寺(神石高原町)
- 講師 片江 哲海 師
(佐賀教区 神崎組 西福寺住職)

桑名 史教 (史教)	深津組 光行寺 三次組 蓮光寺 照影 (照影)	得度許可 おめでとう ござります [敬称略]
---------------	--	---

- ① 2012年10月3日(水) 「正定滅度」
13:00～16:00 ~淨土真宗のご利益とは何か~
- ② 2013年2月19日(火) 「読経意趣」
13:00～16:00 ~お経を読むとはどういうことか?~
- ③ 2013年4月4日(木) 「発遺招喚」
13:00～16:00 ~善導大師の二河譬とは何か?~

沼隈南組 光照寺 前住職 季平 (7月26日寂)	沼隈西組 正藏坊 前坊守 藤原妙子 (6月28日寂)	敬弔 お悔やみ申上 上げます [敬称略]
--------------------------------------	--	---

御調東組 法光寺 植村祐衣(心昭) (平成24年5月15日付)	御調東組 福善寺 八木純平(純孝) (平成24年8月11日付)	第三次組 教念寺 沼隈西組 万福寺 前住職 河村祐玄 (9月29日寂)
---------------------------------------	---------------------------------------	--



このたび、平成24年6月30日付をもちまして、本願寺備後教団・備後教区教務所を退職いたし、東京教区多摩組照恩寺へ夫婦で入寺いたしました。

在職中の11年間、一方ならぬお世話をになり本当にありがとうございました。こちらにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

人事について



溝口賢亮さんが退職されました。お世話になりました。
沼隈西組 教念寺 前住職 河村祐玄
(9月29日寂)

「親鸞わが心のアジャセ」公演

大遠忌法要の地方都市法要行事の一環として一昨年に広島で開催された創作劇の再公演が決まり、このたび備後教区では9月6日(木)に福山リーデンローズにて開催、約1400名が観劇した。教区の法要委員と各組より選出された若手僧侶を中心に、当日の受付や会場案内、搬入作業を行った。



当日の受付や搬入・搬出作業も教区のスタッフが活躍した。

主演の川崎麻世(アジャセ・親鸞役)や音無美紀子(イダイケ役)らの熱演に、会場内は大いに盛り上がった。

演出も多少の変化があり、広島の公演をすでに見られた方をはじめ、初めての方にも好評で「とても良かった。アッという間の時間だった」と喜びの声が聞かれました。

<http://fm777.co.jp/pc/index.html>

インターネットでのラジオ視聴方法

- 上記ホームページの左上 「ウェブラジオ」をクリック
- 画面切り替わって 中央の 「映像スタート」をクリック

※ラジオ放送時間をご確認ください。
※動画は固定カメラでの映像です。

Radio BINGO ティオビンゴ
お坊さんステーション
FM 77.7 MHz

放送時間
月曜…午後6時10分頃
木曜…午後6時10分頃



メールアドレス
h2012@bingo.gr.jp
ホームページアドレス
http://bingo.gr.jp/



今年の夏も暑かつた。お盆を過ぎたら秋の気配を感じられる北海道でも、8月22日に35度という猛暑を記録し、9月になつても残暑が続き、こんなことは珍しいと言われた▼この夏、ロンドンオリンピック、夏の選抜高校野球も熱かつた。選手たちの活躍が記憶に残る▼春の高校野球で選手宣誓をつとめた、東日本大震災の被災者でもある石巻工業高等学校の安部翔人主将の言葉は、今も心に響いている。「人は誰でも答えのない悲しみを受け入れることは苦しくてつらいことです。でも日本が一つとなつて困難を乗り越えることができたなら、その先にはきっと幸せが待っていると思います。」▼短いメッセージの中に重く深い課題がなげかけられている。(I. K)

『教区報』の編集にあたり、皆様の「ご意見やご感想、情報の提供をお待ちしています。教区報専門紙販売部、『1報』ください。』
fax TEL (084) 924-5759
(084) 931-9223